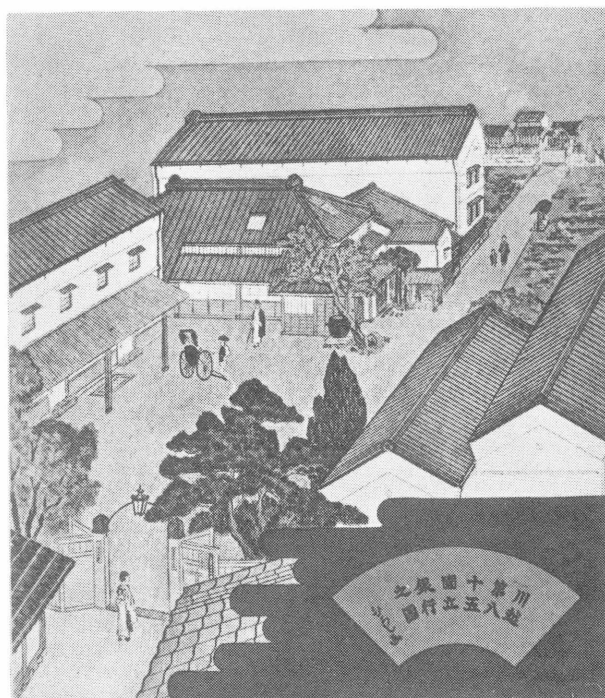


県民の日記念 第11回文書展目録

地方金融資料展

— 近 代 —

11月11日(金)—11月16日(水)
埼玉県立浦和図書館ホール



1977

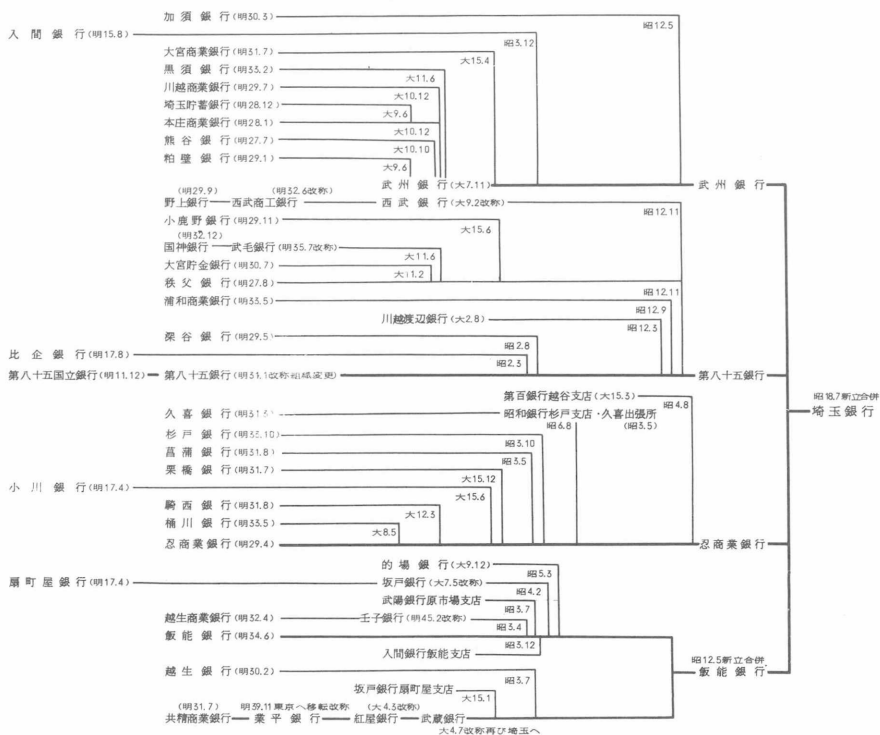
埼玉県立文書館

展 示 目 録

No.	展 示 文 書 名	文書番号
銀行のあけぼの—川越第八十五国立銀行の誕生		
1	明治10年3月14日 国立銀行創立ノ儀ニ付達	明 1505
2	明治11年3月 入間郡川越町第八十五銀行創立願	埼玉3250
3	明治11年10月15日 入間郡川越町第八十五銀行創立證書	埼玉3245
4	明治11年11月11日 入間郡川越町第八十五国立銀行創立定款	埼玉3246
5	明治11年12月 入間郡川越町第八十五国立銀行社印並諸役員印鑑届	明 1506
6	明治12年11月21日 入間郡川越町第八十五国立銀行資本金増株願	明 1507
7	明治13年6月30日 入間郡川越町第八十五銀行国立銀行営業報告	明 3247
8	明治14年 入間郡川越町第八十五国立銀行綿絵	埼玉資料
9	明治30年7月22日 入間郡川越町第八十五国立銀行営業継続認可申請書	明 3580
10	明治30年9月22日 入間郡川越町第八十五国立銀行営業満期ニ付約條書	埼玉3244
11	明治31年1月17日 入間郡川越町第八十五国立銀行紙幣消印ニ付借用金証書	埼玉1147
12	明治31年6月22日 入間郡川越町第八十五国立銀行臨時総会請求書	埼玉3249
続々と設立—私立銀行・銀行類似会社乱立		
13	明治12年12月5日 入間郡川越町私立銀行願之儀伺	明 1507
14	明治13年11月22日 備荒儲蓄法之儀ニ付伺	明 362
15	明治14年12月28日 比企郡小川村儲蓄一銭会社設立願	明 1510
16	明治16年12月3日 埼玉県備荒儲蓄金穀所在報告	明 1828
17	明治16年 北足立郡小針内宿村学資講改正規約	平川 502
18	明治19年1月15日 北足立郡常光村明壤銀行廃業願	篠崎4927
19	北足立郡常光村明壤銀行株主姓名表	篠崎3202
20	明治29年2月25日 農工銀行設立発起ニ関シ注意ノ件内訓達	明 3579
21	明治29年3月 株式会社忍商業銀行株式申込證綴	埼玉2528
22	明治29年12月 北埼玉郡加須町加須銀行設立陳情書	明 3580
23	明治31年10月7日 入間郡川越町川越貯蓄銀行設立願	明 3589
24	明治33年1月20日 入間郡越生町越生銀行株券	埼玉2683
25	明治34年7月28日 入間郡飯能町飯能銀行情願書	明 3601

26	大正2年3月26日	入間郡頼母子講調査報告書	大 211
27	大正6年10月	北足立郡浦和町埼玉農工債券募集広告	白石5289
埼玉中央銀行の設立計画—武州銀行発足			
28	大正7年8月3日	北足立郡浦和町武州銀行協定書	埼玉銀3257
29	大正7年9月7日	北足立郡浦和町武州銀行支店御設置願	埼玉銀3258
30		北足立郡浦和町武州銀行発起賛成申込株数及其割当人員郡別表	大 970G
31	大正7年11月16日	北足立郡浦和町武州銀行第1回取締役会決議録	埼玉銀資料
32	大正8年1月7日	北足立郡浦和町武州銀行開業御届	大 1058
33		北足立郡浦和町武州銀行旧本店写真	埼玉銀資料
4行の併立—武州・忍商業・飯能・第八十五銀行			
34	大正7年12月	北埼玉郡忍町忍商業銀行・北足立郡桶川町桶川銀行合併書類	埼玉銀 151
35	大正8年8月27日	北足立郡大宮町無尽恵比寿商会営業免許許可	大 1060
36	大正8年9月1日	入間郡川越町第八十五銀行株券	埼玉銀2650
37	大正10年	埼玉県貯蓄銀行合同経営ニ関スル決議案	大 1265
38	大正12年9月11日	関東大震災見舞ニ付書状	埼玉銀 163
39	大正12年10月	関東大震災後ニ於ケル県下金融状況調査	大 1495
40	昭和2年3月19日	金融恐慌ニ付川口新聞号外	埼玉銀 46
41	昭和3年2月1日	北足立郡浦和町武州銀行株券	埼玉銀 2625
42	昭和5年4月20日	昭和4年下半期末全国銀行預金一覽	埼玉銀3187
43	昭和7年9月30日	昭和7年上半期末全国銀行預金一覽	埼玉銀3185
44	昭和12年2月1日	入間郡飯能町飯能銀行・武蔵野銀行合併ニ付書状	昭 3567
45	昭和12年6月21日	入間郡飯能町飯能銀行株券	埼玉銀2674
46	昭和14年10月10日	昭和14年上半期末全国銀行預金一覽	埼玉銀3189
47	昭和14年12月4日	支那事变臨時国債発行ニ付通牒	埼玉銀 148
一県一行が決定—埼玉銀行の登場			
48	昭和18年4月21日	北足立郡浦和町武州銀行他3行合併覚書	埼玉銀3262
49	昭和18年5月18日	北足立郡浦和町株式会社武州銀行臨時株主総会議案	埼玉銀3263
50	昭和18年	埼玉銀行設立登記申請書類	埼玉銀資料
51	昭和18年	埼玉銀行設立関係書類	埼玉銀資料
52	昭和21年4月30日	埼玉銀行第5期業務報告書	埼玉銀3261

埼玉銀行系統図



首都東京に隣接する本県は、近世以来江戸・東京のヒンターランドとして、早くから産業が発達していた。明治以降この産業を発展させるために、多数の金融機関が生じた。

本県には、明治9年の国立銀行条例改正に伴って、明治11年に川越町の豪商の横田五郎兵衛によって、第八十五国立銀行創立願が出され、同年12月17日に営業を開始した。この銀行の好調な収益に、刺激され、各地に私立銀行が生じ、明治19年までに13行が発足した。同時に銀行類似会社も隆盛を極めたが、明治30年をピークに、その後減少をたどった。更に、明治20年末から30年にかけて農工銀行貯蓄銀行等の特殊銀行が生じ、県民の産業の育成に努めた。明治31年に第八十五国立銀行は普通銀行となり、第八十五銀行と改称した。その後、日清・日露戦役後の好景気にもなって、銀行乱立時代に突入した。

これらの銀行は経営基盤がぜい弱であったために、大正7年11月岡田知事の奔走と、渋沢栄一の強力な後援によって、資本金500万円の大規模な武州銀行が設立された。更に大正11年には貯蓄銀行が3行にまとめられた。翌12年の関東大震災を契機として金融恐慌が起り、取付騒ぎが起った。一方庶民金融として、近世以降続いていた頼母子講は大正期に無尽会社となつたが、やはり金融恐慌の影響を免れず、激減した。その後、いち早くこの恐慌を乗り越えた武州銀行が、弱小銀行を合併して膨張していくのに刺激され、銀行の合同化が促進されていった。その結果昭和12年には、普通銀行が、武州・八十五・忍商業・飯能銀行の4行のみとなった。さらに満州事変が拡大され、戦時体制に入ると、国の一県一行主義の方針に沿って、4行はそれまでの行き掛かりを捨て、昭和18年に合併して、埼玉銀行を設立した。その後昭和19年に3貯蓄銀行を吸収して、完全に一県一行となった。

今回は「県民の日」の記念事業の一環として、埼玉銀行から寄贈された文書を中心に、関係行政文書展览展示したが、これらを通して郷土の金融機関の発展の姿を理解する一助にして頂きたいと思う。

印刷 発行	昭和52年11月9日 昭和52年11月10日	編集発行	埼玉県立文書館	住所	浦和市高砂3-1-22 電話 0488-22-9420
----------	---------------------------	------	---------	----	--------------------------------